

人口総数	75,515	世帯数	22,134
男	36,197	面積	16.07
女	39,318		

▷ 芦屋市民憲章 ◁
わたくしたち芦屋市民は

- 文化の高い教養豊かなまちをぎぎましよう
- 自然の風物を愛し、まちを緑と花でつつみましよう
- 青少年の夢と希望をすこやかに育てましよう
- 健康で明るく幸福なまちをつくりましよう
- 災害や公害のない清潔で安全なまちにましよう

広報 あしや

昭和49年 3月20日 第316号

発行所 芦屋市精道町7-6 芦屋市役所 発行人 芦屋市長 編集 公聴広報課 印刷所 オール出版印刷 毎月2回5日20日発行 全世帯配布 昭和29年1月25日第3種郵便物認可(定価2円)

設計 基礎調査が進行中

「ご意見をお寄せください」

「福祉文化センター」(仮称)の建設準備が進んでいます。この施設は、現市民会館駐車場の敷地に建設される予定です。市では同センターの建設にあたって、昨年十二月に仮称福祉文化センター建設準備事務局を組織し、同センター建設の準備を進めてきました。同準備事務局では、現在、関係団体・市民と協議を続けており、さらに市民対象の意識調査、懇談会などを重ねてから基本設計、実施設計、着工と進め、できる限り市民のみなさんのご意見を取り入れ、多くのかたがたに利用していただけるセンターにしたいと考えています。そこで、これまでに検討されたところを、ご紹介します。みなさんの参考のために、ご意見をお寄せいただければ幸いです。ご意見がございましたら、どうぞ同準備事務局(電話☎二二二、内線三五八)まで。

基本的な計画の内容は

基本計画の内容は、講義室、視聴覚室、図書室、会議室、ロビー・展示場などです。

【一階】この階は一般福祉センターとして、各福祉団体のみなさんに利用していただくためのフロアです。すなわち、技能習得室、仕事の場を提供する授産室、相談室、談話・展示室、静養室、会議室、団体事務室、ロビー・展示場などを設けます。

【二階】三階および四階は市民会館として、これによってこれまで市民会館と併設されていた市民会館は独立の施設ができることになりま

開館は51年 3月の予定

福祉文化センターの建設について



福祉文化センター(仮称)が建てる現在の市民会館駐車場

仮称福祉文化センター

親善使節を募集

姉妹都市モンテペロ市派遣

市は、第十一回モンテペロ市派遣親善使節を募集します。派遣した使節は本市の姉妹都市モンテペロ市の一般家庭に滞在し、親善の実をあげることに、米国の生活文化、社会にわたる見識を高め、帰国後、市の国際交流活動その他で芦屋市に貢献していただきます。

【募集人員】二名。

【募集期間】四月一日(二十五日)から七月三十日(九月一日)まで。

【派遣期間】七月中旬から約一カ月間。

【応募資格】①本市に三年以上在住し、満十六才以上、二十才未満。

【選考】会場は市民会館。第一次試験：五月六日(月)午後一時。第二次試験：五月十九日(日)午後二時。合格発表は五月二十二日(水)。

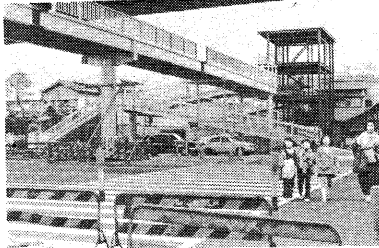
【費用】本人の負担は約七千円の予定ですが、若干変わる場合もあります。

2カ所に新設

いま、市内二カ所でオーバブリッジの建設が進められています。

その一つは市道宮川線の阪急電鉄ガードのすぐ北側、東山郵便局の前で、市道宮川線をまたぐオーバブリッジです。建設現場では基礎工事が進んでおり、本体は工場製作中で、三月末までに完成する予定です。

もう一つは国道四十三号線(第二阪神国道)の打出交差点につくられていくもので、写真のようにほぼできあがり、仕上げを急いでいます。このオーバブリッジも完成は三月末の予定ですが、完了後、歩行者はさのオーバブリッジをご利用ください。



打出交差点の建設現場

【費用】本人の負担は約七千円の予定ですが、若干変わる場合もあります。

消費生活モーターを募集

市役所経済課では、市内居住の二十才以上の主婦を対象に消費生活モーターを募集しています。

お申し込みは、ガキキに住所、氏名、年齢、職業、電話番号、家族構成(年令)をおよびおもに買い物先を記入していただきます。

前号でもお知らせしましたように、三月十九日から二十五日まで、花と植木の展示即売会を開催いたします。お申し込みは、お電話か、お申し込み書に記入の上、市役所経済課までお送りください。お問い合わせは同課消費生活係まで。

花と植木の展示即売会

お申し込みは、ガキキに住所、氏名、年齢、職業、電話番号、家族構成(年令)をおよびおもに買い物先を記入していただきます。

前号でもお知らせしましたように、三月十九日から二十五日まで、花と植木の展示即売会を開催いたします。お申し込みは、お電話か、お申し込み書に記入の上、市役所経済課までお送りください。お問い合わせは同課消費生活係まで。

芦屋下水処理場 水質試験結果

下水処理場では、毎月3回(ほぼ10日に1回)水質の精密検査を行っていますが、その結果は下の表のとおりです。なお2月21日焼却炉の関係で、排煙中のばいじん量、いわゆる酸化物質ならびに臭気の測定を、兵庫県環境科学技術センターへ依頼して行ないました。現在、同センターで分析中ですが、この結果もわかりしだいお知らせします。【下表の水質試験採水時間は各午前10時】

項目	1月21日		1月30日		2月13日		下水道法による基準	
	流入水	処理水	流入水	処理水	流入水	処理水		
天候	曇りのち雨						曇り	—
気温(℃)	2.5		4.0		5.8		—	
水温(℃)	流入水	12.9	流入水	12.4	流入水	11.9	—	
	処理水	13.5	処理水	12.6	処理水	12.1		
PH	7.5	7.4	7.3	7.3	7.6	7.5	5.8~8.6	
BOD ₅ mg/l	91	50	93	55	90	37	120以下	
SS mg/l	72	54	40	28	86	54	150以下	
大腸菌群 /ml	10万以下	2100コ	10万以下	2800コ	8000コ	34コ	3000コ以下	
備考	1月20日	晴	1月29日	晴	2月12日	晴		
	1月19日	晴	1月28日	晴	2月11日	晴一時雪		

【訂正】「広報あしや三月五日号」一面、「健康と暮らしを守る市民福祉の充実」の記事中、「難病対策については、四十八年度から、県において医療給付を実施していますが、その給付対象とされない特定疾病患者」は、「そのうち、その給付対象とされない特定疾病患者」として、本人の自己負担にかかる医療費の全額を補完的に助成します。」のうち、「その給付対象とされない特定疾病患者」は、「そのうち、その給付対象とされない特定疾病患者」として、本人の自己負担にかかる医療費の全額を補完的に助成します。」と訂正します。

国道43号線 四月一日から 夜間二車線を交通規制

午後十一時〜午前六時の間

【内容】国道四十三号線(第二阪神国道)の夜間の自動車交通によって発生する騒音、振動を防止し、沿道住民の安眠などを確保する一環として、昨年七月に実施した速度規制(毎時五十キロ)に引き続き、四月一日から、「車線減少規制」を実施することになりました。実施区間は、芦屋市精道町交差点から西宮市今津交差点までの四車線の最高速度が三月十五日から時速六十キロ(旧八十キロ)になっていきます。

春の交通安全運動

四月六日(土)～十五日(月)

止まります 待ちます 車のきれるまで

あせつてる 今があなたの 赤信号

市役所西入口の香花口(甲南高)の香花売場は、三月いっぱい臨時休業していますのでご注意ください。なお、東入口(霊園事務所前)の香花売場は開いています。

市政電話サービス

市政ニュース ③14894 (みなさまへのお知らせです) いつでもおきください

留守番でんわ ③14444 (夜間・日曜・休日などご利用ください) (お急ぎのときはいつでも③2121へ)

芦屋市役所 ③12121 (平日9:00~17:00, 土曜9:00~12:00)

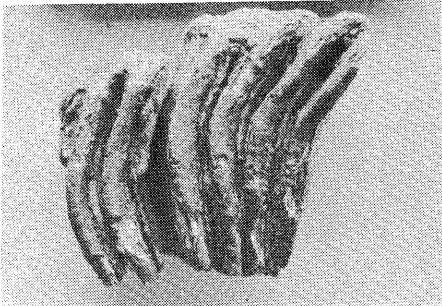
市民会館 ③14995
市民館 ③14996
図書館 ③25978
体育館 ③18228
市立芦屋病院 ③12156
ごみ焼却場 ③2155

道路側溝などの応急処理は 環境保全課機動班 ③0121

平日 8:30~16:30 土曜 8:30~11:30

市役所 サラヤ 案内

史跡・遺跡コースご案内



安時の祠

奥池を開さくした安時が造って水神をおまつりした祠(ほくら)がユース・ホステルの近くにまつられています。

ナウマン象出土地

昭和34年芦有道路の工事中に現在のゲートの北の工事現場から、およそ10万年前のものだといわれるナウマン象の下あごの歯の化石が発見されたのである。このことから表六甲にはナウマン象が生きていたことが考えられる。(写真左上)

芦屋川原と鷹尾城—城山—(城山)

永正8年(1511年)細川高国・澄元の両軍勢による鷹尾城と芦屋川原の合戦は阪神地方の代表的な古戦場として知られている。標高260m、いま城山の山頂には雑草が繁茂し、中世の城跡としての遺構は何も残っていない。

芦屋神社(天神山)

祭神は、天穂日命(アメノホヒノミコト)。毎年9月16日に祭典が行なわれる。境内の西側には古墳時代後期の横穴式石室墳が残されており、社殿の裏庭には立派な宝塔や猿丸安時の奉獻梅樹の歌碑などがある。また、境内には黒松、赤松の原始林をはじめ珍木おがたまの木など多くの樹木があり、とくに数千本のつつじは、4月の花期には実にすばらしい景観をかなで、訪れる人も多い。つつじの種類は、コパノミツバツツジが最も多く、大きなものは3m、樹令200~300年を越える。(写真下)



旭塚古墳(山芦屋町)

山芦屋町23番地の旭化成芦屋寮の敷地内にあったところから、昭和36年の発掘調査のときに「旭塚」と命名された。古墳は横穴式石室で、長さ約7m幅約1.8m。残存していた須恵器、鉄の棺クギなど出土遺物は、現在京都大学考古学研究室に保存されている。

水車白跡(山芦屋町)

江戸時代初期から明治の初めにかけて芦屋川の水車も増えた、しかし、第1次大戦後は電気精米などによって切り替って次第に水車はへり、ついに遺物となった。山芦屋町29番地付近の住宅の石垣のところどころにはめこまれている石臼がその時代の名残りである。

猿丸安時頌徳碑

田畑の用水をめぐって争いが絶えなかった江戸時代に私財を投じ、約20年の歳月を費やし、奥山池の開さく成功し、村のききんを救った猿丸安時翁の功績と人徳を称えて大正5年に建てられたものである。

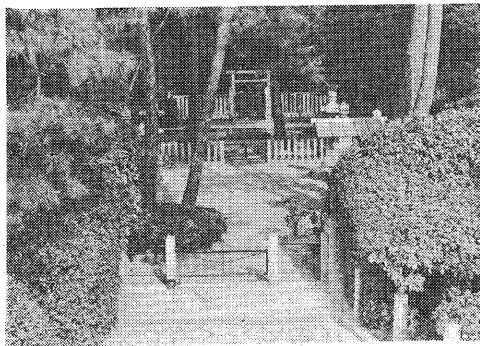
大阪城築場に用いられた芦屋の石

(野外活動センター周辺ほか)

大阪城の石垣には、いまもひらがなで「あしや」ときざまれた石が多数あります。秀吉の大阪城の築城にも「芦屋地方の百姓に対して石工が築城を名に乱暴すると斬罪に処する」との禁制文が残っており、市内各所で刻印のある石が残存することなどから、芦屋から多量の石が運ばれたことがわかります。現在、市民会館玄関脇と岩園小学校内に一部保存しています。

朝日ヶ丘縄文式遺跡(朝日ヶ丘町)

昭和39年の冬に県立芦屋高校の一生徒が芦屋病院南の工事現場で黒褐色の土器を見つけたのがきっかけで、芦屋の歴史が約数千年前の縄文式文化期にさかのぼることを実証する貴重な手がかりになった。その後の発掘調査によって百数十本の石矢じりをはじめ、皮はぎ、石おの、と石などの石器や、縄文時代前期の多量の土器が出土し、住居跡らしい床面も発見されています。発掘品は市民会館の郷土史料室に保存されている。



岩ガ平天神社

祭神は、菅原道真、社殿は、明治年間に改築されている。本殿の前には元禄年間の奉獻石どうろうがあり、拝殿には貴重な絵馬が数多く残っている。境内には八十塚古墳群に属する横穴石室もある。(写真下—横穴石室)



阿保親王塚(翠ヶ丘町)

老樹のうっそうとした森の中に空掘をめぐらした周囲356m、面積7368㎡(2,229坪)の方形の中に、平城天皇の第一皇子阿保親王の円形墳がある。現在は宮内庁の管理となっており、塚は古墳時代の円墳で直径約36m、高さ約3mの御陵となっている。元禄4年(1691年)の陵域改修のときに出土したと伝えられる立派な銅鏡、石製帯装飾品等が親王寺に保存されている。(写真左)

楠公戦跡碑(楠町)

阪神国道沿い北側。このあたりは鎌倉時代末ごろから室町時代末までの動乱の世にたびたび戦いの舞台となったところで、楠正成が延年元年(1336年)足利尊氏を打出にむかえ大合戦をしました。この碑は、これをしのんで昭和九年民間有志の寄金で建てられたものです。

打出天神社と神宮寺(打出春日町)

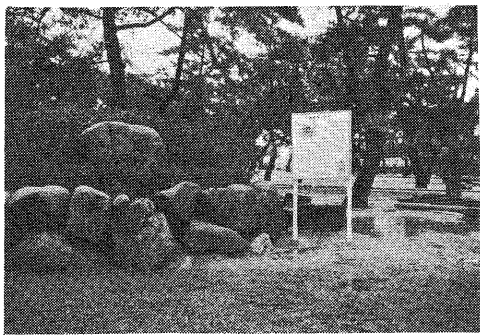
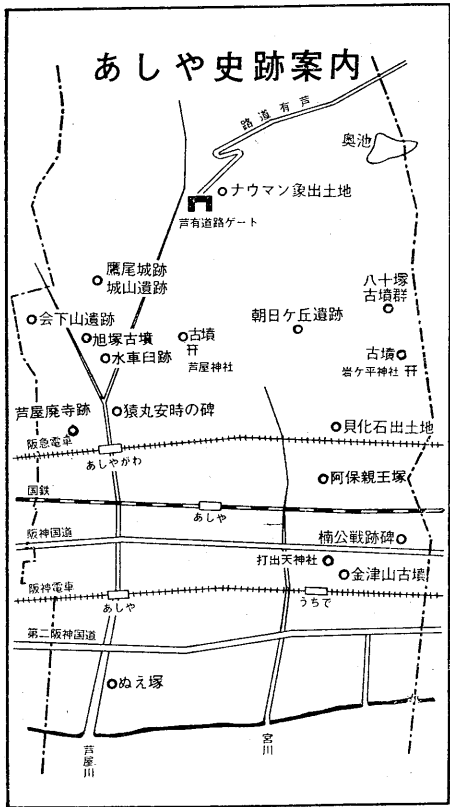
菅原道真、事代主命を祭る、打出の生土神(ウブスナガミ)である。境内には神宮寺があり観音堂に十一面観音像が安置されている。

金津山古墳—通称黄金塚—(打出春日町)

古式古墳として阪神間でもよく知られており、一名黄金塚といわれ、直径44m、高さ4.1mの古墳時代前期の一大円墳である。摂陽群談、元禄14年刊に「阿保親王此岡川に於て、金瓦1万、黄金千枚を埋め、此里飢に及ぶ時は掘て飢餓を養え」とあり、「朝日さす入日かがやくこの下に黄金千枚、瓦万枚」という伝説も残されている。

ぬえ塚(松浜町)

芦屋庭球場の北西隅にある。今から約800年前、近衛天皇が原因不明の不思議な病にかかれた。このとき弓の名手で、源頼政という妖怪変化を京都二条院で討ちとり天皇の病を救った。化物の死体をウツボ(丸木舟)にのせて加茂川に流したところ、淀川~大阪湾を流れ芦屋の浜に漂着した。里人たちは、この化物を見て、あとのたたりをおそれてねんごろに葬い、この塚を建てたという。碑は大正年間につくられたものである。(写真左)



会下山弥生式遺跡

約1800年前の芦屋開拓者ともいべき弥生時代の人の住居跡が7軒、墓地3か所、祭祀2か所など、ほぼ集落の形をそこなわすに発見されています。標高約200メートルの山頂住居跡という全国でも珍しい遺跡で、現在たて穴式住居と高床式米倉が復元され、兵庫県史跡に指定されています。出土品には、弥生時代後期の土器、石器、銅器、鉄器、ガラス小玉など豊富にあり、市民会館郷土史料室に保存されています。(写真上)

財団法人 滴翠美術館(山芦屋町)

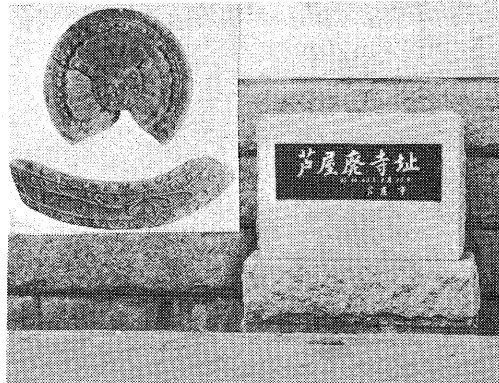
故山口吉郎兵衛氏の収集された古美術品等の遺品を同夫人山口チカ氏の寄贈により昭和39年6月に山口文化会館の美術部内として開設されました。収集品は、御所、江戸大奥に關係する人形、羽子板、うんすんかるた類のほかに、京焼、紀州焼等の国焼類は高く評価されています。また、43年には陶芸研究所が併設され、お花、ピアノ教室とともに文化センターとしての役割を果たしている。

(月曜日以外は開館。また、月曜日でも祝日と重なった場合も開館しています。時間は、10時~16時30分)

芦屋廃寺—通称塩通山報恩寺—(西山町・月若町)

西山町134番地付近は、むかしから奈良時代のすぐれた仏教文化を伝える寺院が存在したことが、文献や遺瓦によって推定されました。このうち猿丸家に保存の塔心礎は県重要文化財に指定されています。

近年、この地の建設工事によって発掘調査が行なわれた結果、基壇とか柱穴などによる伽藍配置はわかりませんでした。芦屋廃寺の構造物があったと推定される地域が発見されています。また、奈良時代から室町時代にいたる多量の遺瓦や文字のかかれた埴(せん)薬壺、土錘、土器など当時の生活を伝える貴重な遺物も発見されています。(写真左上は遺瓦)



芦屋の緑と史跡 をたずねる 市民のつどい

—市民憲章推進事業—

よと き 3月27日(水) (雨天のときは28日(木))
※集合時間 午前10時
※集合場所 芦有バス・水車谷停留所
※開散場所 芦有バス・奥池停留所
※参加 となたでもどうぞ(昼食、水筒をご持参ください)
※講師 芦屋山草の会会員、芦ノ芽グループ会員
※コース 水車谷 楠谷 ゴロゴロ岳 奥池 (3km)

日本の国立公園の中で六甲山は、まに近く、しかも変化に富み、市民にとっては、私たちや祖先の裏山として市民の生活と結びついている山はほかにはありません。早春の一日を芦屋背山を中心に野に芽ばえる山野草、奥山刻印群をたずねてみませんか

